

上尾市学校施設更新計画基本方針策定に伴う

# 学校施設ミーティング 開催報告書

上尾市教育委員会

教育総務部教育総務課

2019年3月

# 学校施設ミーティング開催報告書

## 1. 目的

市民への情報提供、課題の共有化と、市民からの意見徴収を目的として開催

## 2. 参加者委員

主に市民の方に参加を頂き、参加委員は、学校に係る市民の方の他、4名の公募を行い2名の応募があり、全参加委員数14名にて開催した。

【参加委員一覧：別紙1を参照】

## 3. 開催状況

<開催日>2018年9月28日、11月29日、2019年1月25日

<開催概要>

初回（9月28日）は、全国的な少子化による学校規模の状況について、文教大学の葉養教授よりレクチャーを受けると共に、上尾市の状況について情報共有を行った。その後、少子化が及ぼす学校への影響や課題について、参加委員より意見を頂いた。

第2回目（11月29日）は、参加委員よりクラス数、クラス人数の下限値と、徒歩通学の距離の上限について、意見を頂くとともに、その目安を超える場合の解決案についても、意見を頂いた。

第3回目（1月25日）は、教育総務課より、これからの教育環境に必要と考えるソフト対応とハード対応について、目安の項目を提示し、参加委員の方から、項目の加除と、優先する整備について、意見を頂いた。さらに教育総務課より、学校施設に他の用途を複合化する場合のたたき台の用途と整備の目安となる項目も提示し、参加委員の方から、項目の加除と、たたき台の複合用途にさらに追加できそうな用途について、意見を頂いた。

【各回の学校施設ミーティング開催結果まとめ：別紙2を参照】

<開催状況のまとめ>

全回において、参加委員の方には、難しいテーマの中、積極的に議論へ参加を頂き大変感謝をしている。また、毎回において、とても重要なお意見を頂け、基本方針の中でも骨子となる考えとして、策定に向けて整理を進めたいと考える。

## 4. 得られた意見まとめ

### (1) 適正な学校規模づくり

#### 【許容できる最低規模】(学校規模の下限值)

小学校：各学年で2～3学級を確保(学校規模12～18学級)

中学校：各学年で4学級を確保(学校規模12学級)

各学級人数：20人

※学校教育法施行規則 41条、79条

小学校の学級数：12学級以上18学級以下を標準とする。ただし、地域の実態その他により特別の事情があるときは、この限りではない。

中学校の学級数：同上

※公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律

第1学年35人/学級、第2学年以上40人/学級

(1学校における総人数は、学級数により20人×学級数とはならない。)

例) 2学級の場合：20人学級+21人学級 = 41人

(40人以上で2学級とできる)

3学級の場合：27人学級+27人学級+27人学級=81人

(40人+40人+1人以上で3学級とできる)

【児童生徒減少時の解決案として得られた主な意見(学校規模)】

1. 学校の統廃合
2. 学区割の変更
3. 学校を選択制とする
4. 市の枠を越えた通学(対応)
5. 小中一貫校化
6. 転用可能教室等の活用
7. 他の学校と連携して授業を行う
8. サテライト授業の導入
9. 子育てサービスの充実化
10. 住民の誘致

**【徒歩通学圏の理想】（徒歩通学の上限距離）**

小学校の通学距離：1.5km から 2.0km 以内

中学校の通学距離：1.5km から 2.0km 以内

※義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律施行令 第4条 二

通学距離：小学校 約4キロメートル以内、

中学校 約6キロメートル以内

**【児童生徒減少時の解決案として得られた主な意見（通学）】**

統廃合などにより、徒歩通学の距離が変わる場合は、上記を目安に他の通学方法の検討・協議を要する。

他の通学方法としては、下記が主な意見として挙げられた。

1. スクールバスの導入
2. 保護者の送迎
3. 自転車通学

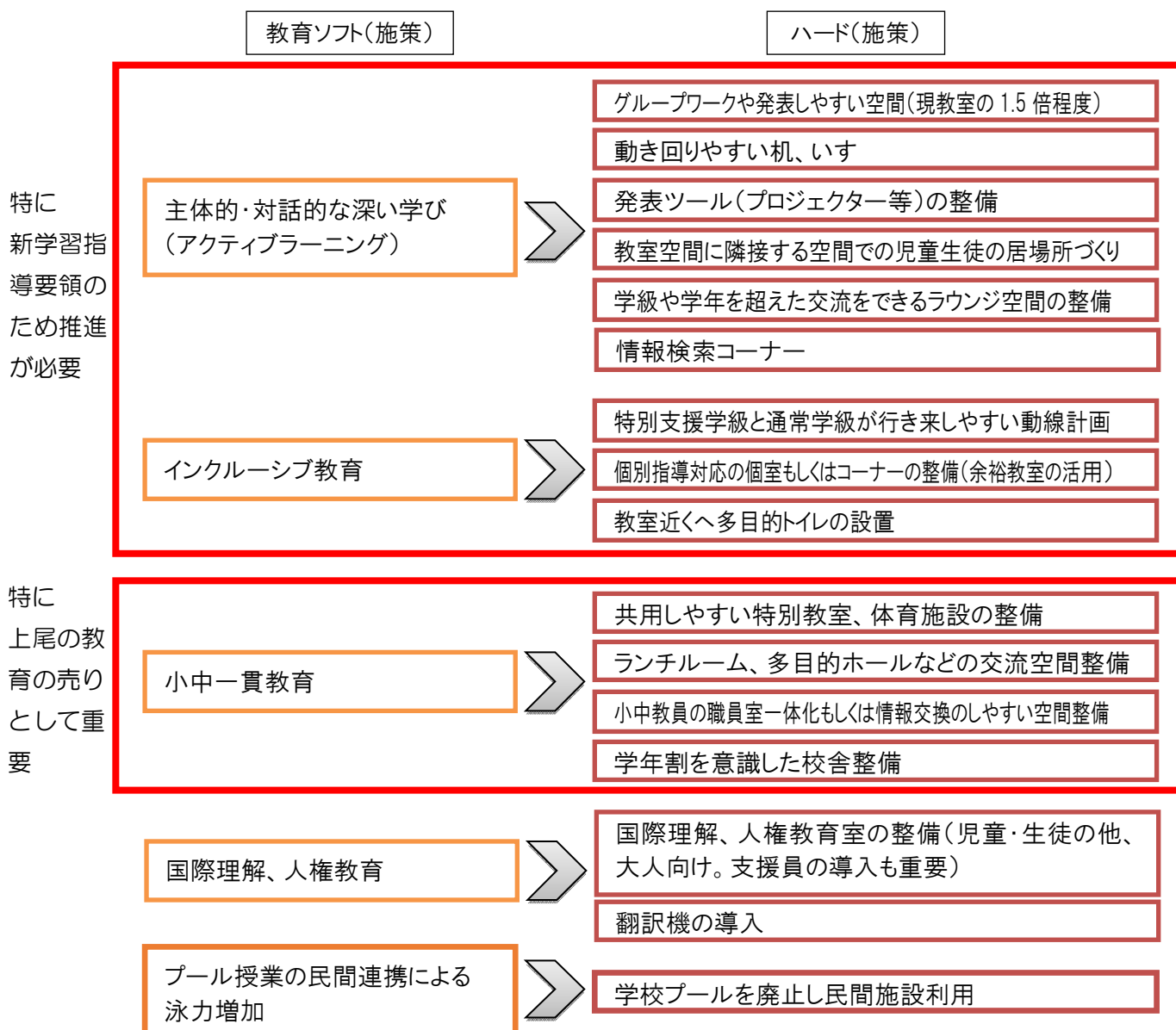
通学距離の変化に伴い、通学する学校を選択できるようにするなどの意見も挙げられた。

1. 区域外通学
2. サテライト授業の導入

## (2) 利用しやすい教育環境整備の推進

小・中学校にて必要な機能の他、これからの主な教育ソフトに対する環境整備として、次ページのような項目として、意見が挙げられた。

加えて、特に重要な項目（ソフト項目）について赤枠を選定し、赤枠右に記載のように意見が挙げられた。



環境ソフト(施策)

ハード(施策)

寒冷及び熱中症対策



高断熱仕様の窓、壁、屋根

空調設備の設置(特別教室、体育館)

主体的・  
対話的で  
深い学び  
と密接な  
関係

利用する教材の変化



教科書サイズの変更による机サイズの変更

荷物量増加に伴うロッカー空間の再整備

インターネット、本などの情報活用



タブレットや教室大型テレビの活用

メディアセンター化

ICT 機器の利用環境整備(電源、LAN)

多種多様な人の受け入れ(老若男女、障害の有無、人種等)



バリアフリー化(他整備時も実施)

ユニバーサルデザインの採用(他整備時も実施)

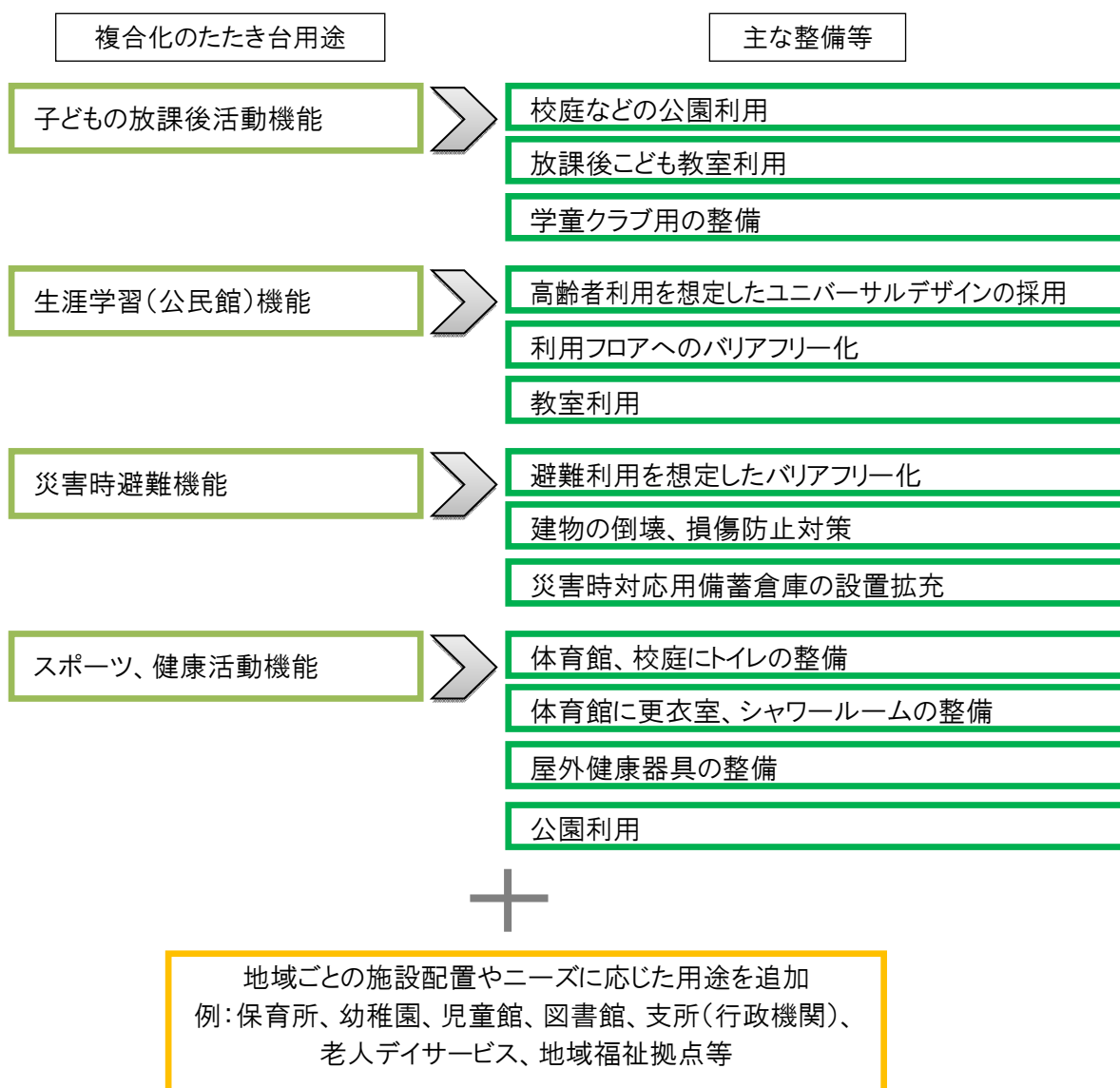
### (3) 施設の健全化と複合化

#### 【学校施設の複合化】

学校施設に他の用途を複合化する場合に重要となる考えについて、以下の様に意見が挙げられた。加えて、複合化する際の複合用途の目安として下図の様な4機能と主な整備内容が挙げられた。

※健全化については、順次実施する必要があるため、意見出しに含めていない。

- 学校教育との相乗効果が見込める機能を複合化
- 地域連携の拠点づくり
- 子育て支援機能、高齢者福祉機能との連携（多世代交流）
- 転用可能教室の有効活用
- 防災機能（災害避難所等）の確保
- 防犯機能（セキュリティ）の確保



【教育施設に複合化する際に、十分な検討を要する用途】

学校施設との複合化に向かないと考える用途	理由
美術館・博物館	維持するには費用がかかるため 規模が大きすぎるため、非効率的
病院・診療所	児童・生徒に感染の恐れがあるため
居住型高齢者施設	市内で既に多くの立地が見られるため 居住等の機能は学校施設にそぐわないため
障がい者入所施設	入所施設までは難しいと考えたため 居住等の機能は学校施設にそぐわないため

上記用途全般について、教育施設との複合化においては、親和性が薄い、教育との相乗効果が見込まれない、セキュリティに問題があるといった意見が挙げられた。

上尾市で所有している施設は、診療所や障がい者入所施設（通所）などがあるため、学校施設と複合化を要する場合は、十分な検討、協議を要すると考える。



## 上尾市学校施設更新計画基本方針策定 学校施設ミーティング 名簿

役職		氏名
市民公募 (4名募集の所、2名公募)		宮入勇二
		佐藤光明
学校評議員 (※学校運営協議会委員)	大石小学校	倉元圭子
	上平小学校	湯本葉子
	尾山台小学校	黒須竹雄
	平方北小学校	関根 和子
	上尾中学校※	須賀 聡
	大谷中学校	酒井憲司
退職校長会	本部役員会計担当	山下文孝
	本部役員広報担当	堀越洋子
上尾市PTA連合会	副会長	宮内 礼子
	副会長	岡田 勇気
	副会長	坂本 忠光
	副会長	豊田 健介
有識者	文教大学教授	葉養正明

敬称略

# 第1回 学校施設ミーティング・上尾市学校施設更新計画基本方針策定懇話会 開催結果まとめ

日時：平成30年9月28日（金）18:00～20:00

場所：上尾市役所 7階 大会議室

## プログラム

- ・開会
- ・あいさつ
- ・委員紹介
- ・情報共有



- ①全国的な適正規模・適正配置に関する動向について

（文教大学教育学部心理教育課程 教授 葉養正明氏より）

- ②上尾市の学校規模、配置及び、前年度実施のアンケート調査集計結果も踏まえた情報の共有

（上尾市教育委員会 教育総務部 教育総務課より）

- ・意見抽出

①人口減少が及ぼす学校への影響は何か。

②これからの公立学校の課題は何か

- ・次回以降の日程について（予定）

1

## ■情報共有①

第1回 上尾市学校施設更新計画基本方針策定懇話会開催結果

葉養正明氏（文教大学教育学部心理教育課程 教授）より

「全国的な適正規模・適正配置に関する動向について」  
についてご説明いただきました。

### ●主な説明内容

1. 全国市区町村の小規模学校増加への対策
2. 小・中学校の平均規模推移のシミュレーション
3. 学校統合困難区域の取り出し方法
4. 対応策は？（事例紹介）

2

上尾市教育委員会 教育総務部 教育総務課より

「上尾市の学校規模、配置及び、前年度実施のアンケート  
集計結果も踏まえた情報の共有」についての説明がありました。

●主な説明内容

1. 上尾市の人口について
2. 上尾市の児童・生徒数について
3. 学校施設更新計画のポイント

3

情報共有1および2を踏まえて、  
下記についてグループワーク形式にて意見の抽出を行いました。

① 人口減少が及ぼす学校への影響は何か

② これからの公立学校の課題は何か

4

①人口減少社会が及ぼす学校への影響は何か

項目	主な意見
①児童数について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童・生徒数が減少する</li> <li>・ 通学班が構成できなくなる</li> <li>・ 縦割り班という集団が作れなくなる</li> </ul>
②学級数について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学級数が減少する</li> <li>・ クラス替えができなくなる（ずっと同じクラスメイト）</li> <li>・ 学校規模のメリットが失われる</li> <li>・ 人数の多いクラスと少ないクラスが生じる</li> </ul>
③イベント等の開催について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 遠足、運動会の実施が難しくなる</li> <li>・ 部活動の維持が難しくなる</li> </ul>
④学校施設について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施設を維持できず、学校数が減少する</li> <li>・ 教室が余り、手入れが行き届かない（教室が物置のようになる）</li> <li>・ 老朽化により施設の維持が難しくなる</li> <li>・ 学校運営予算が維持できない</li> <li>・ 児童一人当たりの維持コストが高くなる</li> </ul>
⑤地域との関わりについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の人口が減少する（地域のコミュニティが減少する）</li> <li>・ 地域・保護者からの協力が減る</li> <li>・ 地域見守り隊（ボランティア）の人数が減る</li> <li>・ 学校役員が大変</li> </ul>

5

①人口減少社会が及ぼす学校への影響は何か

項目	主な意見
⑥児童・生徒の交流について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 深いつながりが持てる（団結力が増す）</li> <li>・ 多様性が担保されない</li> <li>・ 集団行動に限界が生じる</li> <li>・ 児童・生徒同士のふれあいが減る</li> <li>・ 対人関係が狭くなる（友達が少なくなる）</li> <li>・ 児童・生徒同士の競争がそがれる</li> </ul>
⑦教育の質について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学業に集中できる</li> <li>・ きめ細かい教育（英才教育）が可能となる</li> <li>・ 児童・生徒数が減ることで指導が行き届くようになる（1～3年と4～6年で別校舎はどうか）</li> <li>・ マンツーマン教育が可能になる</li> <li>・ 授業内容が縮小される</li> <li>・ 体育の授業の実施が難しくなる</li> <li>・ 教員数の削減（クビ）が行われる</li> <li>・ 私立学校との差が開く</li> </ul>
⑧その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校給食の維持が難しくなる</li> <li>・ 学校のプールを独り占めできる</li> <li>・ 一人当たりの作業（掃除など）が増える</li> </ul>

6

## ②これからの公立学校の課題は何か

項目	主な意見
①地域との連携について	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域連携の拠点となるような複合化を行う</li> <li>子育て施設、高齢者向け施設と連携する</li> <li>幼児が学校に出入りできるようにする</li> <li>小学校と中学校の交流</li> </ul>
②学校施設の利活用について	<ul style="list-style-type: none"> <li>空き教室を有効活用する</li> <li>学校施設を別の用途に転用する</li> </ul>
③学校の統廃合について	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校を廃合する</li> <li>学校を統合する</li> </ul>
④セキュリティーについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校開放に関する安全管理を見直す（開放↔閉鎖）</li> </ul>
⑤教育環境の維持について	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼小中一貫校とする</li> <li>学区の見直しを行う</li> <li>スクールバスを導入する</li> <li>eラーニングを導入し、他の学校と連携して授業を行う</li> <li>ITを活用する</li> </ul>
⑥部活動について	<ul style="list-style-type: none"> <li>付近の学校と合同で部活動を行う</li> </ul>
⑦その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>校長の公募を行う</li> </ul>

7

## ①人口減少社会が及ぼす学校への影響は何か

### ●1班

各学校で部活動を行うことが困難となり、**他の学校と合同の部活動**になるのではないかと**いった意見が挙がった。**

また、市の説明で、現在4kmもの道のりを通学している生徒がいるとあったため、**スクールバスの導入が必要である**といった意見も挙がった。

### ●2班

**EラーニングとITを活用し、隣接する複数の学校で合同で授業を行う**ことで、小人数学級であっても**色々な子どもたちと意見交換ができる**と考えた。一方で**子ども同士がふれあう機会の減少が懸念**される。

また、**人口の減少が進行すると地域を形成することが難しくなる**と考えた。学校が無くなることで、子どもがいなくなり、さらには地域から人口が流出するといった連鎖が生まれることが懸念されるため、**各地域に如何にして学校のような地域の中心となる施設を残していくかが重要である**と考える。

### ●3班

人口減少によるデメリットとしては、**「学級編成が難しい」「イベントの開催が困難」「通学班の編成が困難」「児童・生徒一人当たりの作業が増える」「役員が大変」**などの意見が挙がった。一方でメリットとしては、**「質の高い教育が期待できる」「教員の目が行き届く」「団結力が生まれる」**などが挙げられた。

8

②これからの公立学校の課題は何か

●1班

使わない**教室の有効利用**や**複合施設とする**などの意見が挙がった。その中でも、**幼児が学校に気軽に遊びに来ることができる環境をつくること**や**学校敷地内に幼稚園をつくることにより幼児と児童・生徒の交流が生まれる**と考えた。さらに**小・中学校の交流を深めること**でさらなる**コミュニティの形成が期待できる**と考えた。

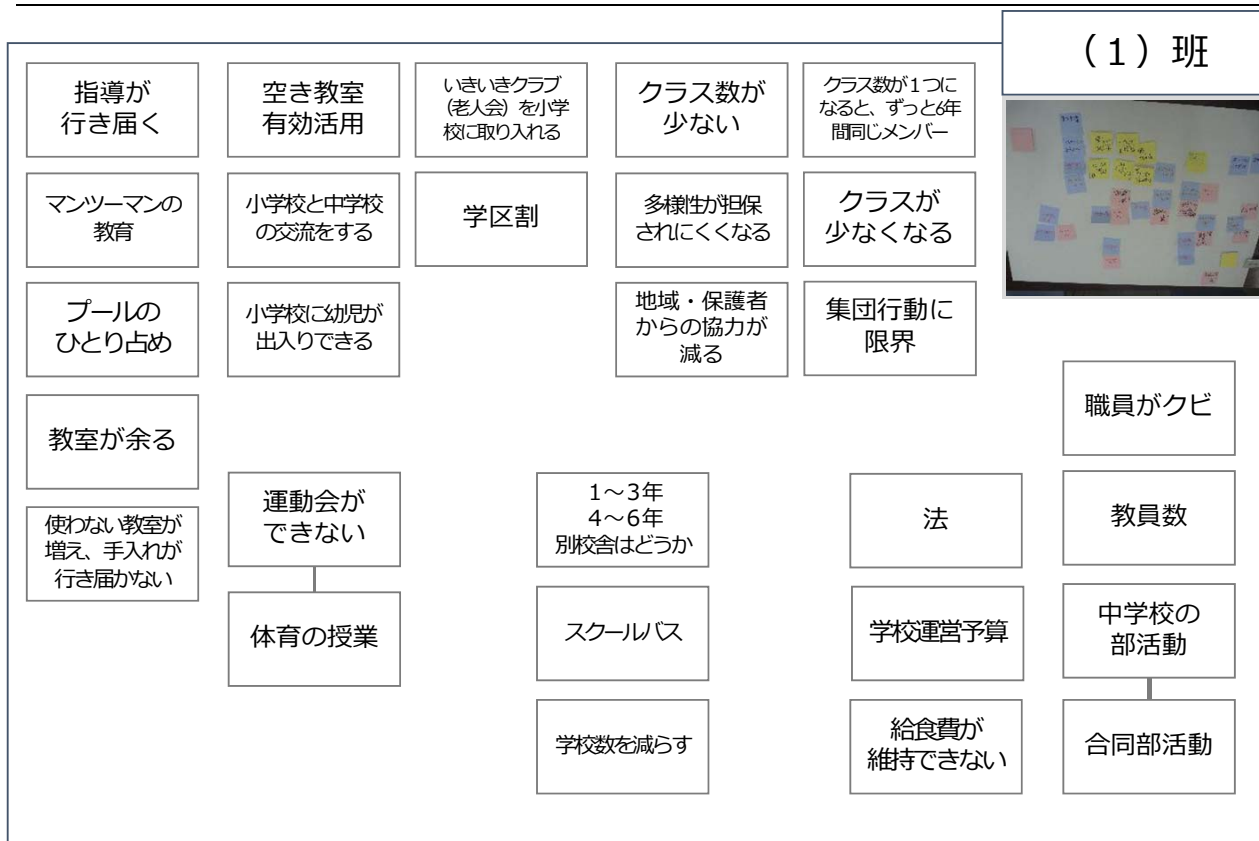
●2班

現在は、正門の開閉によりセキュリティ管理を行っている学校が多いが、利便性の点から、**正門は開放し、インターホンの導入によって校舎のセキュリティ管理を行う等**とすることが望ましいと考える。


●3班

公立学校の課題として、「**スクールバス化**」「**給食の見直し**」「**学区の見直し**」「**校長の公募**」「**学校の選択性**」などが挙げられた。特に**学校を選択制とすることで、各学校間に競争が生まれ、より良い学校教育につながる**と考えた。また、**スクールバスの導入により、さらに学校の選択の幅を広げることができる**と考えた。  
また、**学校・地域・家庭が連携する地域の拠点**として複合化することが望ましい。さらに**幼稚園・小学校・中学校が連携することで、幼稚園生は小学校の様子を、小学生は中学校の様子を見ることができ、加えて高齢者向け施設を導入することで、お年寄りと子どもの間にも交流が生まれる**と考える。


■意見抽出（グループワーク）結果 <1班>



■意見抽出（グループワーク）結果 <2班>

					<b>(2) 班</b>	
建物の転用	eラーニング	学校に行くことで道徳を学べる	地域のコミュニティー減少	英才教育		
深いつながりが持てる	IT活用	地域見守り隊（ボランティア）の人数	地域の人口減少	キメ細かい教育ができる		
複数の学校をつないで合同授業もできそう		生徒の通学班編成		学校行事をどうするか	学習の成績向上か？	
集中する		免許外小さいと課題	教師の減	児童数の減少	空き教室の増加	
教員も減ると・・・	セキュリティー	職員の人数削減	生徒数減少	空き教室の活用		
私学と差が開く		ふれあい	生徒数（減）	学校老朽化		
				施設の維持が難しくなる		

■意見抽出（グループワーク）結果 <3班-①>

					<b>(3) 班</b>	
1人当たりの作業が増える掃除など	児童1人当たりの維持コストが高くなる	クラス数が減る	チームを必要とする部活ができない			
役員がたいへん	先生の目が行きとどいていない	人数の多いクラスと少ないクラスができる	クラス変えがなくなる			
規模のメリットが失われる	質の高い教育が期待できる	対人関係が狭くなる	イベントがやりにくい（運動会・遠足）	体育の授業 ・野球 ・サッカー ・バレーボール	音楽の授業 ・合唱 ・楽器演奏	
学校給食の困難性	団結力が増す	友達が少ない	通学班の編成ができない	理科の授業 ・実験の手伝い	図工の授業 ・協同製作	
空き教室の有効利用	競争がそがれる	教室が物置の様になっている		美術の授業 ・協同製作		
縦割り班という集団が作れなくなる						

(3) 班

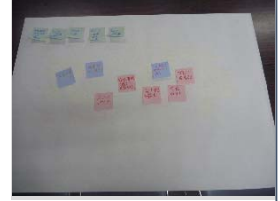
地域連携の拠点  
となるような  
複合化

モンスター対策  
私立なら切れぬが  
公立はそうはいかない

学区の見直し  
選択制

校長の公募

幼・小・中  
連携、統合、一貫



職員の減少

授業内容が  
縮小化

公立保育園  
幼稚園  
複合

学区の基準  
見直し

スクールバス化

給食体制

学校格差の  
拡大

安全管理の  
考え方  
開放↔閉鎖



## 開催結果まとめ

日時：平成30年11月29日（木）18:00～20:00

場所：上尾市役所7階 大会議室



### プログラム

- ・開会
- ・あいさつ
- ・情報共有

#### ①学校施設更新計画基本方針策定に向けての基礎資料共有 2

- 主な説明内容
  - ・学校施設の複合化事例
  - ・学校規模と面積
  - ・改修及び更新による財政ひっ迫への対策

(上尾市教育委員会 教育総務部 教育総務課より)

#### ②第1回学校施設ミーティング 主な意見の抽出整理

- ・意見抽出（グループワーク・発表）

1

### ■意見抽出（グループワーク）

第2回 学校施設ミーティング開催結果

情報共有を踏まえて、『適正な学校規模づくり』（クラス数・クラス人数・通学）について、グループワーク形式にて以下の手順で意見の抽出を行いました。

- ① 人口減少社会が及ぼす学校への影響の抽出  
(前回内容の補足 および ネガティブ要素とポジティブ要素の再分類)
- ② ネガティブ要素を解消するための最低許容規模の設定
- ③ 上記②の最低許容規模を下回る場合の解決案の検討

2

ネガティブ要素を解消するための最低許容規模として得られたクラス数とクラス人数

<クラス数> ※1学年あたりのクラス数（小学校を主に検討）

班	最低許容限度	主な理由（発表、テーブルワーク時のコメント含む）
1班	3クラス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2クラスだとクラス替えが難しいため</li> <li>・遠足やクラス対抗の行事など様々なことに取り組めるため</li> <li>・部活動を維持することができるため</li> <li>・対人関係を確保することができるため</li> </ul>
2班	小学校：2～5クラス 中学校：4～8クラス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス間の競争性を確保するため</li> <li>・教員の目が行き届くクラス人数とするため</li> </ul>
3班	2クラス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス替えが可能な規模を確保するため</li> <li>・児童・生徒間の競争を確保するため</li> <li>・教員数を確保するため</li> </ul>

<クラス人数>

班	最低許容限度	主な理由（発表、テーブルワーク時のコメント含む）
1班	20人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サッカーなど大人数で行うスポーツに対応可能であるため</li> <li>・縦割り班の構成や集団行動が可能であるため</li> </ul>
2班	20～35人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の目が行き届くクラス人数とするため</li> </ul>
3班	20人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工夫次第で体育の授業にも対応可能であるため</li> <li>・20人未満であると性格や家庭、話題等の多様性がなくなるため</li> <li>・児童・生徒間の競争が確保されなくなるため</li> </ul>

<通学距離>

班	最低許容限度	主な理由（発表、テーブルワーク時のコメント含む）
1班	小学生：1 km 中学生：2 km	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通学距離が長いと通学時間が長くなり、早朝に自宅を出発する必要があるため</li> <li>・最低許容規模以上の通学距離を要する場合には自転車通学かスクールバスを導入することで対応可能であるため</li> </ul>
2班	文科省基準 (小学校：概ね4 km以内) (中学生：概ね6 km以内)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上尾市は狭い面積の中で学校数が多く、小学校から2 km以内、中学校から4 km以内に含まれる地域が多いため</li> </ul>
3班	2.1 km（30分）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民の見守りで対応できる限界であるため</li> <li>・荷物を持った部活動帰りの中学生が徒歩通学可能な距離の限界であるため</li> </ul>

## 最低許容限度を下回る（児童生徒の減少）時の解決案として得られた意見

### <クラス数に関すること>

- ・学校の統廃合
- ・学区割の変更
- ・小中一貫校化
- ・空き教室の複合施設化
- ・市の枠を越えた統合
- ・他の学校と連携して授業を行う
- ・空き教室の活用（地域の方が活躍できる場づくり）

### <クラス人数に関すること>

- ・学校の統廃合
- ・住民の誘致
- ・他の学校と連携して授業を行う
- ・子育てサービスの充実化
- ・学校を選択制とする
- ・サテライト授業の導入
- ・市の枠を越えて対応する
- ・授業内容の工夫（ミニサッカー）

### <通学に関すること>

- ・スクールバスの導入
- ・保護者の送迎
- ・自転車通学
- ・サテライト授業の導入
- ・区域外通学

5

## 開催内容の整理資料（参考）

### ①人口減少社会が及ぼす学校への影響 （第1回時まとめ、第2回時追加）

6

## ①人口減少社会が及ぼす学校への影響（まとめ）

※黒文字の項目は第1回学校施設ミーティングであがった意見。  
 ※色付きの項目は第2回学校施設ミーティングで新たにあげた意見。

人口が減少することに対する主な意見の再確認＜クラス数に関すること＞	
ネガティブ要素	
<ul style="list-style-type: none"> <li>学校規模のメリットが失われる</li> <li>児童・生徒が減少する</li> <li>学級数が減少する</li> <li>クラス替えができなくなる（ずっと同じクラスメイト）</li> <li>一人当たりの作業が増える</li> <li>運動会（遠足）の実施が難しくなる</li> <li>部活動の維持が難しくなる</li> <li>教員数の削減が行われる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校役員が大変</li> <li>学校給食の維持が難しくなる</li> <li>児童一人当たりの維持コストが高くなる</li> <li>学校運営予算が維持できない</li> <li>対人関係が狭くなる（友達が少なくなる）</li> <li>多様性が担保されない</li> <li>児童生徒同士のふれあいが減る</li> <li>私立学校との差が開く</li> <li><u>競争が無くなる</u></li> </ul>
ポジティブ要素	
<ul style="list-style-type: none"> <li>指導が行き届くようになる</li> <li>深いつながりが持てる（団結力が増す）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><u>職員間の競争が激しくなり、教員の質が上がる</u></li> </ul>

7

## ①人口減少社会が及ぼす学校への影響（まとめ）

※黒文字の項目は第1回学校施設ミーティングであがった意見。  
 ※色付きの項目は第2回学校施設ミーティングで新たにあげた意見。

人口が減少することに対する主な意見の再確認＜クラス人数に関すること＞	
ネガティブ要素	
<ul style="list-style-type: none"> <li>授業内容が縮小される</li> <li>集団行動に限界が生じる</li> <li>体育の授業が難しくなる</li> <li>学校により、人数の多いクラスと少ないクラスが生じる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童・生徒同士の競争がそがれる</li> <li>縦割り班という集団が作れなくなる</li> <li><u>以前は同学年で出来ていたことが出来なくなる</u></li> <li><u>対人関係が身につかない</u></li> <li><u>子どものプレッシャーが増える</u></li> </ul>
ポジティブ要素	
<ul style="list-style-type: none"> <li>学業に集中できる</li> <li>マンツーマン教育が可能になる</li> <li>きめ細かい教育（英才教育）が可能になる</li> <li>学校のプールを独り占めできる</li> <li><u>深いつながりが持てる</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><u>自ら考える子が育つ</u></li> <li><u>会話が深まる</u></li> <li><u>指導が行き届くようになる</u></li> <li><u>生徒の役割を与えられる機会が増える</u></li> </ul>

8

## ①人口減少社会が及ぼす学校への影響（まとめ）

※黒文字の項目は第1回学校施設ミーティングであがった意見。  
 ※色付きの項目は第2回学校施設ミーティングで新たにあげた意見。

人口が減少することに対する主な意見の再確認<通学に関する事>
ネガティブ要素 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 地域の人口（コミュニティ）が減少する</li> <li>• 地域見守り隊の人数が減少する</li> <li>• 通学班が構成できなくなる</li> <li>• <u>安全管理のエリアが増える</u></li> <li>• <u>通学の時間差が増える</u></li> </ul>
ポジティブ要素 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <u>学校と地域のコミュニティが強くなる</u></li> <li>• <u>基礎体力が向上する</u></li> </ul>

## ①人口減少社会が及ぼす学校への影響

### 模造紙の（付箋）状況

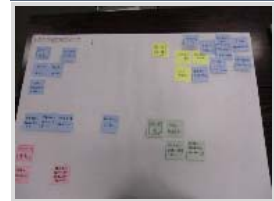
<クラス数に関すること>

(1) 班

ネガティブ要素

※   : 新規項目

- |                |              |                  |               |                |
|----------------|--------------|------------------|---------------|----------------|
| 学校規模のメリットが失われる | 一人当たりの作業が増える | 運動会（遠足）の実施が難しくなる | 部活動の維持が難しくなる  | 児童生徒同士のふれあいが減る |
| 児童・生徒が減少する     | 学級数が減少する     | クラス替えが出来なくなる     | 対人関係が狭くなる     | 多様性が担保されない     |
| 教員数の削減が行われる    | 学校役員が大変      | 学校給食の維持が難しくなる    | 学校運営予算が維持できない | 私立学校との差が開く     |
- 児童一人当たりの維持コストが高くなる



ポジティブ要素

※   : 新規項目

- |              |                         |
|--------------|-------------------------|
| 指導が行き届くようになる | 職員間の競争が激しく、質の良い先生になるのでは |
|--------------|-------------------------|

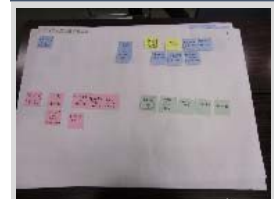
<クラス人数に関すること>

(1) 班

ネガティブ要素

※   : 新規項目

- |                 |                  |                          |
|-----------------|------------------|--------------------------|
| 授業内容が縮小される      | 集団行動に限界が生じる      | 体育の授業が難しくなる              |
| 児童・生徒同士の競争がそがれる | 縦割り班という集団が作れなくなる | 学校により人数の多いクラスと少ないクラスが生じる |



ポジティブ要素

※   : 新規項目

- |           |                |               |                |
|-----------|----------------|---------------|----------------|
| 学業に集中できる  | マンツーマン教育が可能となる | きめ細かい教育が可能となる | 学校のプールを独り占めできる |
| 自ら考える子が育つ | 深いつながりが持てる     |               |                |

<通学に関すること>

(1) 班

ネガティブ要素

※   : 新規項目

地域の人口  
(コミュニティ)  
が減少する

地域見守り隊の  
人数が減少する

通学班が構成  
できなくなる



ポジティブ要素

※   : 新規項目

学校と地域の  
コミュニティ  
が強くなる

「地域がしっかりしないと」というイメージ

<クラス数に関すること>

(2) 班

ネガティブ要素

※   : 新規項目

学校規模のメリッ  
トが失われる

一人当たりの  
作業が増える

運動会 (遠足) の  
実施が難しくなる

部活動の維持  
が難しくなる

児童生徒同士の  
ふれあいが減る

児童・生徒  
が減少する

学級数が  
減少する

クラス替えが  
出来なくなる

対人関係が  
狭くなる

多様性が担  
保されない

教員数の削減  
が行われる

学校役員が  
大変

学校給食の維持  
が難しくなる

学校運営予算が  
維持できない

私立学校と  
の差が開く

児童一人当た  
りの維持コス  
トが高くなる



ポジティブ要素

※   : 新規項目

指導が行き届  
くようになる

深いつなが  
りが持てる

<クラス人数に関すること>

(2) 班

ネガティブ要素

※   : 新規項目

- 授業内容が縮小される
- 集団行動に限界が生じる
- 体育の授業が難しくなる
- 学校により人数の多いクラスと少ないクラスが生じる
- 児童・生徒同士の競争がそがれる
- 縦割り班という集団が作れなくなる
- 同学年で出来たものが出来なくなる



ポジティブ要素

※   : 新規項目

- 学業に集中できる
- マンツーマン教育が可能となる
- きめ細かい教育が可能となる
- 学校のプールを独り占めできる

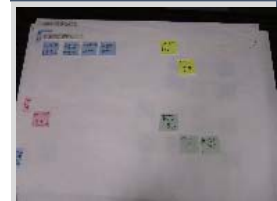
<通学に関すること>

(2) 班

ネガティブ要素

※   : 新規項目

- 地域の人口（コミュニティ）が減少する
- 地域見守り隊の人数が減少する
- 通学班が構成できなくなる





<クラス数に関すること>

(3) 班

ネガティブ要素

※   : 新規項目

- 学校規模のメリットが失われる
- 一人当たりの作業が増える
- 運動会（遠足）の実施が難しくなる
- 部活動の維持が難しくなる
- 児童生徒同士のふれあいが減る
- 児童・生徒が減少する
- 学級数が減少する
- クラス替えが出来なくなる
- 対人関係が狭くなる
- 多様性が担保されない
- 教員数の削減が行われる
- 学校役員が大変
- 学校給食の維持が難しくなる
- 学校運営予算が維持できない
- 私立学校との差が開く
- 児童一人当たりの維持コストが高くなる

競争が  
無くなる



ポジティブ要素

※   : 新規項目

- 指導が行き届くようになる
- 深いつながりが持てる

<クラス人数に関すること>

(3) 班

ネガティブ要素

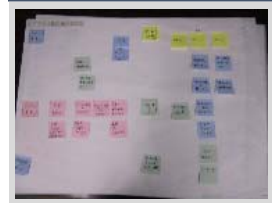
※   : 新規項目

- 集団行動に限界が生じる
- 体育の授業が難しくなる
- 児童・生徒同士の競争がそがれる
- 縦割り班という集団が作れなくなる
- 学校により人数の多いクラスと少ないクラスが生じる
- 対人関係が身につかない
- 子どものプレッシャーが増える

ポジティブ要素

※   : 新規項目

- 学業に集中できる
- マンツーマン教育が可能となる
- きめ細かい教育が可能となる
- 学校のプールを独り占めできる
- 会話が深まる
- 指導が行き届くようになる
- 生徒の役割を与えられる機会が増える



<通学に関すること>

(3) 班

ネガティブ要素 ※   : 新規項目

地域見守り隊の  
人数が減少する

通学班が構成  
できなくなる

安全管理の工  
リアが増える

通学の時間差  
が増える



ポジティブ要素 ※   : 新規項目

基礎体力が  
上がる

19

## 開催内容の整理資料（参考）

- ②ネガティブ要素を解消するための最低許容規模の設定
- ③最低許容規模を下回る場合の解決案の検討

模造紙の（付箋）状況

<クラス数に関すること>

(1)班

最低許容規模の設定 ※   : 最低許容規模を満たすことで解消されるネガティブ要素

3クラス/学年	クラス替えが出来ること	運動会（遠足）の実施が難しくなる	部活動の維持が難しくなる	児童生徒同士のふれあいが減る
	多様性が担保されない	クラス替えが出来なくなる	対人関係が狭くなる	学校役員が大変

1クラス 教員（2）

教員数の削減が行われる

最低許容規模を下回る場合の解決案

学校を統廃合する	他の学校と連携して授業を行う	空き教室を複合施設化 <small>（学童、施設、公民館等）</small>
----------	----------------	---

21



<クラス人数に関すること>

(1)班

最低許容規模の設定 ※   : 最低許容規模を満たすことで解消されるネガティブ要素

20人/クラス	集団行動に限界が生じる	体育の授業が難しくなる
	児童・生徒同士の競争がそがれる	縦割り班という集団が作れなくなる

最低許容規模を下回る場合の解決案

住民誘致 人口増加 児童数増加	子育てサービスの充実化	分母を増やす	学校の統廃合
-----------------------	-------------	--------	--------

22



<通学に関すること>

(1) 班

最低許容規模の設定 ※   : 最低許容規模を満たすことで解消されるネガティブ要素

小学生：1km  
中学生：2km

通学班が構成  
できなくなる

(それ以外は自転車かバス)



最低許容規模を下回る  
場合の解決案

スクールバス

自転車

<クラス数に関すること>

(2) 班

最低許容規模の設定 ※   : 最低許容規模を満たすことで解消されるネガティブ要素

小学校  
2クラス以上  
5クラス以下

中学校  
4クラス以上  
8クラス以下

練習は合同  
試合は別

部活動の維持  
が難しくなる



最低許容規模を下回る  
場合の解決案

統合

学区割の  
変更


小中一貫

地域の人が  
活躍できる  
ソフト

<クラス人数に関すること>

(2) 班

最低許容規模の設定

※  : 最低許容規模を満たすことで解消されるネガティブ要素

小学校  
20人以上  
35人以下

中学校  
20~35人




最低許容規模を下回る  
場合の解決案

統合

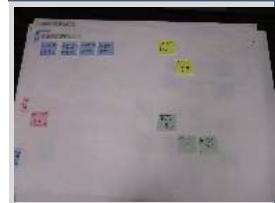
<通学に関すること>

(2) 班

最低許容規模の設定

※  : 最低許容規模を満たすことで解消されるネガティブ要素

文科省基準



最低許容規模を下回る  
場合の解決案


区域外通学

スクール  
バス

<クラス数に関すること>

**最低許容規模の設定** ※   : 最低許容規模を満たすことで解消されるネガティブ要素

**(3) 班**



1クラス

○  
2クラス

クラス替えが出来なくなる	児童生徒同士のふれあいが減る
競争が無くなる	学校給食の維持が難しくなる
運動会（遠足）の実施が難しくなる	一人当たりの作業が増える

3クラス

多様性が担保されない	学校運営予算が維持できない
対人関係が狭くなる	児童一人当たりの維持コストが高くなる
学校役員が大変	

最低許容規模を下回る場合の解決案

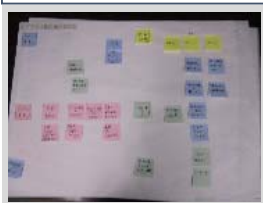
学区の見直し	越境	市の枠を越えて統廃合
--------	----	------------

27

<クラス人数に関すること>

**最低許容規模の設定** ※   : 最低許容規模を満たすことで解消されるネガティブ要素

**(3) 班**



10人

○  
20人

集団行動に限界が生じる	縦割り班という集団が作れなくなる
体育の授業が難しくなる	子どものプレッシャーが増える

30人

対人関係が身につかない	児童・生徒同士の競争がそがれる
-------------	-----------------

最低許容規模を下回る場合の解決案

学校を選択制とする	他の学校と連携して授業を行う	サテライト授業
ミニサッカー	市の枠をこえて対応(広域)	学校を統廃合する

28

<通学に関すること>

(3) 班

最低許容規模の設定

※   : 最低許容規模を満たすことで解消されるネガティブ要素

○ 30分  
2.1 km

安全管理のエリアが増える

通学の時間差が増える

45分  
3 km

60分  
4 km

通学班が構成できなくなる

地域見守り隊の人数が減少する



最低許容規模を下回る場合の解決案

大石小  
大石中

(中学)  
自転車

スクールバスの導入

サテライト授業

保護者の送迎

各班の発表コメント一覧

<クラス数に関すること>

●1班

遠足やクラス対抗の行事等の実施を考慮すると、1学年3クラス以上であれば、学校として様々なことに取り組むことが出来る。解決案として実践すべきこととしては、学校の統廃合および空き教室の有効活用が挙げられた。また、充実した教育環境を目指す取り組みとして、1クラスに教員2名を配置すること等の意見が挙げられた。

●2班

小学校は1学年に2～5クラス、中学校は4～8クラスが最低許容規模である。クラス数の減少に伴い、各中学校における部活動の部員数が減少すると想定されるが、通常の練習は周辺の学校と合同で実施し、試合は学校対抗で行う等、対応は可能である。また、他の取組事項としては、学校の統合、小中一貫校化、学区割の変更等が考えられる。空き教室については、地域の方が取り組みたい活動を拾い上げ、実施できる場所や体制を整えることで有効活用することができる。

●3班

1学年に2クラスが最低許容規模である。理由としては、クラス替えの実施、児童・生徒間の競争の確保等が挙げられる。また、クラス数の減少に伴う利点としては、児童・生徒間のふれあいが増えるとの意見が挙げられた。小学校は1クラスに対して1.2人、中学校は1.5人の教員の配当が目安とされているが、クラス数が減ると教員数が少なくなり、有事の際に対応可能な職員が限られる。今後は上尾市独自の採用方式により、教員数を増やす等、検討してほしい。

<クラス人数に関すること>

●1班

1クラス30人以上であれば、体育でサッカー等の大人数で行うスポーツにも対応することができ、縦割り班の構成や集団行動も可能となる。児童・生徒数を維持するためには、住民を誘致し、児童を増やすことが出来るよう、住みやすいまちにする等の取組が必要である。

●2班

1クラス20～35人が最低許容規模であると考えた。これは、保護者目線で教員が生徒をしっかりと見ることのできる人数である。児童・生徒数の減少に対する解決案としては、学校の統合等が挙げられる。

●3班

1クラス20人が最低許容規模である。人数を要する行事や体育の授業等も小規模化等の工夫をすることで対応可能である（ミニサッカー等）。児童・生徒数を確保するためには、市の枠を越えた学区編成の検討が必要である。



## ＜通学に関すること＞

## ●1班

人口減少社会がもたらす影響として、地域と学校との結びつきが強くなるという、班独自の意見が挙げられた。通学距離の最低許容規模は、小学生1 km、中学生2 kmで、それ以上の通学距離を要する際には、スクールバスや自転車通学の導入が考えられる。ただし、スクールバスの運用については、財政的な懸念が残るため、今後の検討が必要である。

## ●2班

上尾市は狭い面積の中で学校数が多いことから、小学校から2 km以内・中学校から4 km以内の範囲に含まれる地域が多い。したがって、通学距離の基準については文科省の基準を用いることで問題ない。統廃合等により学校数が減少する際には、スクールバスの導入や区域外通学等で対応する。

## ●3班

安全面から、30分(2.1 km)以内が最低許容規模であると考えた。これは地域住民の見守りで対応できる限界である。中学校の減少に伴い、一部の生徒の通学距離が長くなることが予想されることから、通学に自転車を使わざるを得なくなると考えられるが、安全面に留意して検討する必要がある。

第3回 上尾市学校施設ミーティング

開催結果まとめ

日時：平成31年1月25日（金）18:00～20:00

場所：上尾市役所7階 大会議室

プログラム

- ・ 開会
- ・ あいさつ
- ・ 情報共有

- ① 第2回学校施設ミーティングの振り返り
- ② 学校運営に関わる費用について  
(上尾市教育委員会 教育総務部 教育総務課より)

・ 意見抽出（グループワーク・発表）

- ① これからの教育に必要と考える機能、性能
- ② 複合化の「たたき台モデル」

・ 総評

(文教大学教育学部心理教育課程 教授 葉養正明氏より)



■ 意見抽出（グループワーク）

第3回 学校施設ミーティング開催結果

① これからの教育に必要と考える機能、性能 **【検討結果】**

「これからの教育に必要と考える機能、性能」について追加、修正の検討を行いました。

<これからの教育に必要と考える機能、性能一覧（1/3）>

ソフト面	ハード面 ※赤字：1班で追加された機能 青字：2班で追加された機能
① 主体的・対話的な深い学び (アクティブラーニング)	・グループワークや発表のしやすい空間（現教室の1.5倍程度）
	・動きまわりやすい机、いす
	・発表ツール（プロジェクタ等）の整備
	・学級や学年を越えた交流ができるラウンジ空間
	・情報検索コーナー
② インクルーシブ教育	・バリアフリー化（他整備時も実施）
	・ユニバーサルデザインの採用（他整備時も実施）
	・特別支援学級と通常学級が行き来しやすい動線
	・個別指導対応の個室、もしくはコーナーの整備（余裕教室の利用）
	・教室近くへ多目的トイレの設置
	・支援員の導入

①これからの教育に必要と考える機能、性能【検討結果】

＜これからの教育に必要と考える機能、性能一覧（2/3）＞

ソフト面	ハード面 ※赤字：1班で追加された機能 青字：2班で追加された機能
③ 国際理解・人権教育	・国際理解、人権教育室の整備
	・大人（保護者等）向けの国際理解、人権教育の実施
	・翻訳機の導入
	・翻訳ソフトの導入
	・支援員の導入
④ 小中一貫教育	・共用しやすい特別教室の整備
	・ランチルーム、多目的ホール等の交流空間整備
	・小中教員の職員室一体化、もしくは情報交換しやすい空間整備
	・学年割を意識した校舎整備
	・小中兼用のプールを設置
	・広い校庭を整備

①これからの教育に必要と考える機能、性能【検討結果】

＜これからの教育に必要と考える機能、性能一覧（3/3）＞

ソフト面	ハード面 ※赤字：1班で追加された機能 青字：2班で追加された機能
⑤ 寒冷および熱中症対策	・高断熱仕様の窓、壁、屋根
	・空調設備の設置（特別教室、体育館）
⑥ 利用する教材の変化	・教科書サイズの変化に伴う、机サイズの変更
	・荷物量増加に伴う、ロッカー空間の整備
	・資料の共有（軽量化）
	・教室のテレビの活用
⑦ インターネット、本などの情報活用	・タブレットの活用（※1班・2班の両班で追加）
	・メディアセンター化
	・ICT機器の利用環境整備（電源、LAN）
	・タブレットの活用（ソース化で経費を抑える）
	・タブレットをグループで使用する（1人だけで見ないように）
⑧ プール授業の民間連携による泳力向上	・学校プールを廃止し、民間施設利用

①これからの教育に必要と考える機能、性能【検討結果】

「これからの教育に必要と考える機能、性能」について各班で優先順位の検討を行いました。

● 1班

順位	選択した項目（ソフト面）	理由
1	主体的・対話的な深い学び（アクティブラーニング）	・子どもの交流を重視するべきと考えたため ・子ども同士が交流する体制を築いたうえで以下の取組みを推進することで相乗効果が期待できるため
2	利用する教材の変化	・時代の変化に対応するため ・タブレットの導入により荷物を減らすことができるため
	インターネット・本などの情報活用	・時代の変化に対応するため ・インターネットの正しい使い方を学ぶことができるため

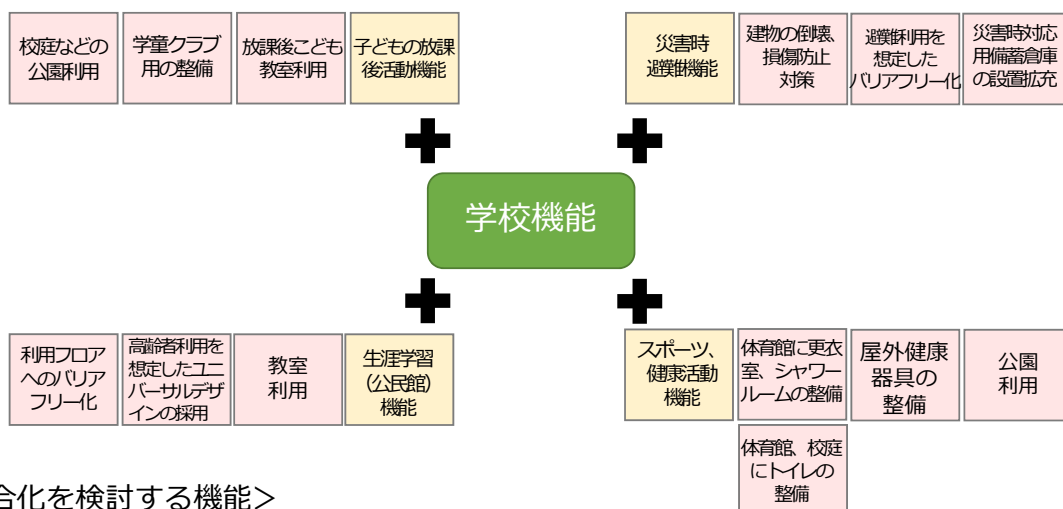
● 2班

順位	選択した項目（ソフト面）	理由
1	小中一貫教育	・上尾市の特徴を見出すため ・学力の向上につながるため ・上下関係の意識を育むため
2	主体的・対話的な深い学び（アクティブラーニング）	・文部科学省の学習指導要領に位置付けられており、早期に実施しなければならない事項であるため
3	インクルーシブ教育	

②複合化機能の「たたき台モデル」

以下の「複合化機能のたたき台モデル」に対して複合化可能な機能を各班で検討しました。

<たたき台モデル>



<複合化を検討する機能>

・保育所	・居住型高齢者施設	・障がい者作業所	・地域福祉拠点
・幼稚園	・文化センター	・障がい者入所施設	・自治集会所
・児童館	・支所（行政機関）	・美術館・博物館	・図書館
・老人デイサービス	・病院・診療所	・風俗営業以外の民間施設	

②複合化機能の「たたき台モデル」【検討結果】

<複合化可能な機能>

● 1班

※赤字：各班で追加した項目

・支所（行政機関）	・障がい者作業所
・保育所	・民間施設（スーパーマーケット）
・老人デイサービス	・オープンな文化財資料館
・児童館	・施設利用状況案内板（システム）
・図書館	・防犯機能
・幼稚園	

● 2班

・支所	・幼稚園
・保育所	・自治会集会所
・老人デイサービス	・文化センター
・児童館	・地域福祉拠点
・図書館	

②複合化機能の「たたき台モデル」【検討結果】

<複合化機能として選択しなかった項目と理由>

● 1班

選択しなかった項目	理由
美術館・博物館、文化センター	維持するには費用がかかるため 規模が大きすぎるため
病院・診療所	児童・生徒に感染の恐れがあるため
居住型高齢者施設	市内で既に多くの立地が見られるため
障がい者入所施設	入所施設までは難しいと考えたため
地方福祉拠点	複合化には向かないと考えたため
自治会集会所	自治会単位で配置すべきと考えたため

● 2班

選択しなかった項目	理由
美術館・博物館	セキュリティに問題があるため 非効率的であるため 親和性が薄いため 教育との相乗効果が見込めないため 居住等の機能は学校施設にそぐわないため
病院・診療所	
障がい者入所施設	
障がい者作業所	
居住型高齢者施設	
風俗営業以外の民間施設	

①これからの教育に必要と考える機能、性能

●1班

子ども同士が顔を合わせて交流することが最も重要であると考え、「主体的・対話的な深い学び（アクティブラーニング）」の優先順位を最も高く設定した。また上記に付随する形で「利用できる教材の変化」、「インターネット、本などの情報活用」の整備を推進できれば良いと考える。「利用できる教材」としては具体的にタブレットやモニターが挙げられる。こうした設備をグループ内で共有して使用することで児童・生徒間の交流にもつながる。また、これからの時代の変化に対応するという点でも上記の取組みは重要であると考えた。

●2班

今後、児童・生徒数が減少していく中で「小中一貫教育」を最も優先的に導入するべきであると考えた。小中一貫教育の導入により、学力・体力の向上や上下関係の意識の成熟等が期待できる。また、早期に取り組むことで上尾市の特色として他市との差別化を図ることができれば良いと考えている。第2位は「アクティブラーニング」、第3位は「インクルーシブ教育」を選択したが、これらはいずれも文部科学省の学習指導要領にも含まれているため、確実に実施すべきと考えた。インクルーシブ教育では、障がいを持つ子ども一人一人に応じた指導を行うために支援員を整備し、他の児童・生徒との交流を深めることで偏見のない学校教育を目指すことが重要であると考えた。

②複合化機能の「たたき台モデル」

●1班

1班では「たたき台モデル」に新たに防犯機能を加えた。複合施設として様々な機能を導入する場合、学校に出入りする人が増えることが予想される。したがって、子どもたちの安全を確保するためにはICカード等で学校施設への入場を管理する等の取組みが必要となると考えた。また、近年の子どもは他者と交流する機会が少ない傾向にあることから、子どもと高齢者が集まることのできる場所を導入するといった案が挙がった。病院は感染拡大の恐れがある等の理由から、居住型高齢者施設および障がい者入所施設は居住機能が学校施設と複合するにはふさわしくないとの理由から、博物館・美術館・文化センターは学校内ではなく地域に立地すべきであるとの理由から複合化機能に含まなかった。

●2班

学校に幼稚園、老人デイサービスを複合することで、幼稚園児、高齢者との間に交流が生まれ、子どもにとって良い勉強の場になると考えた。また、文化センターを複合することで、子どものうちから大きな舞台を経験させることができると考えた。居住型高齢者施設および障がい者入所施設は居住機能が学校施設と複合するにはふさわしくないとの理由から、病院は経営の見通しが立たないと思われるとの理由から、美術館・博物館は単独で配置した方が良いとの理由から複合化機能に含まなかった。以上の検討から、学校施設と複合することで相乗効果が得られる施設のみを複合化することが重要であるとの結論に至った。

葉養正明氏（文教大学教育学部心理教育課程 教授）より、  
第3回 学校施設ミーティングの総評としてコメントを頂きました。

上尾市は、子育て・教育に関して先導的な自治体であると認識している。そうした面から、子育て世代が暮らしやすいまちづくりの一環として学校の利活用について考えていくと良いと考える。また、人口減少・少子高齢化の進行に伴う都市機能の集約（コンパクトシティ）の観点からは、「学び・福祉の拠点」として、学校に高齢者向けの施設を導入し、子どもと高齢者が交流することのできる拠点を形成することも有効であるといえる。さらに財政的な視点からは、子どもと親だけでなく、住民税（学校の更新および設備の導入に充てられる税金）を支払っている幅広い年齢層の住民が満足して利用できる利便性の高い施設を導入する等も考えられる。上尾市のように、学校施設の更新について市民の自由な意見を取り入れる機会を設けている自治体は多くない。是非今後もこのような取り組みを続けてほしい。

① これからの教育に必要と考える学校機能、性能（1/2） <グループワーク開始時>

特に必要な整備	ソフト	ハード					理由
主体的・対話的な深い学び（アクティブラーニング）	グループワークや発表のしやすい空間（現教室の1.5倍程度）	動きまわりやすい机、いす	発表ツール（プロジェクタ等）の整備	学級や学年を越えた交流ができるラウンジ空間	情報検索コーナー		
インクルーシブ教育	バリアフリー化（他整備時実施）	ユニバーサルデザインの採用（他整備時実施）	特別支援学級と通常学級が行き来しやすい動線	個別指導対応の個室、もしくはコーナーの整備（余裕教室の利用）	教室近くへ多目的トイレの設置		
国際理解 人権教育	国際理解、人権教育室の整備						
小中一貫教育	共用しやすい特別教室の整備	ランチルーム、多目的ホール等の交流空間整備	小中教員の職員室一体化、もしくは情報交換しやすい空間整備	学年割を意識した校舎整備			

①これからの教育に必要と考える学校機能、性能 (2/2) <グループワーク開始時>

特に必要な整備	ソフト	ハード	理由
	寒冷及び熱中症対策	高断熱仕様の窓、壁、屋根	空調設備の設置 (特別教室、体育館)
	利用する教材の変化	教科書サイズの変化に伴う、机サイズの変更	荷物量増加に伴う、ロッカー空間の整備
	インターネット、本などの情報活用	メディアセンター化	ICT機器の利用環境整備 (電源、LAN)
	プール授業の民間連携による泳力向上	学校プールを廃止し、民間施設利用	

13

①これからの教育に必要と考える学校機能、性能 (1/2) <1班>

特に必要な整備	ソフト	ハード	※赤字：各班で追加した項目				理由
NO.1	主体的・対話的な深い学び (アクティブラーニング)	グループワークや発表のしやすい空間 (現教室の1.5倍程度)	動きまわりやすい机、いす	発表ツール (プロジェクタ等) の整備	学級や学年を越えた交流ができるラウンジ空間	情報検索コーナー	子どもの交流を重視。顔を合わせて対話できる子
	インクルーシブ教育	バリアフリー化 (他整備時実施)	ユニバーサルデザインの採用 (他整備時実施)	特別支援学級と通常学級が行き来しやすい動線	個別指導対応の個室、もしくはコーナーの整備 (余裕教室の利用)	教室近くへ多目的トイレの設置	
	国際理解人権教育	国際理解、人権教育室の整備	国際理解は大人から				
	小中一貫教育	共用しやすい特別教室の整備	ランチルーム、多目的ホール等の交流空間整備	小中教員の職員室一体化、もしくは情報交換しやすい空間整備	学年割を意識した校舎整備		

14



①これからの教育に必要と考える学校機能、性能 (2/2) <1班>

特に必要な整備	ソフト	ハード	※赤字：各班で追加した項目				理由
	寒冷及び熱中症対策	高断熱仕様の窓、壁、屋根	空調設備の設置 (特別教室、体育館)				
NO.2	利用する教材の変化	教科書サイズの変化に伴う、机サイズの変更	荷物量増加に伴う、ロッカー空間の整備	タブレットの活用	資料の共有 (軽量化)	教室のテレビの活用	時代の変化に対応するため
NO.3	インターネット、本などの情報活用	メディアセンター化	ICT機器の利用環境整備 (電源、LAN)	タブレットの活用	タブレット→ソース化で経費を抑える	タブレットをグループで使用 (1人だけで見えないように)	時代の変化に対応するため
	プール授業の民間連携による泳力向上	学校プールを廃止し、民間施設利用					

15

①これからの教育に必要と考える学校機能、性能 (1/2) <2班>

特に必要な整備	ソフト	ハード	※赤字：各班で追加した項目				理由
NO.2	主体的・対話的な深い学び (アクティブラーニング)	グループワークや発表のしやすい空間 (現教室の1.5倍程度)	動きまわりやすい机、いす	○ 発表ツール (プロジェクタ等) の整備	△ 学級や学年を越えた交流ができるラウンジ空間	○ 情報検索コーナー	
NO.3	インクルーシブ教育	バリアフリー化 (他整備時実施)	ユニバーサルデザインの採用 (他整備時実施)	特別支援学級と通常学級が行き来しやすい動線	個別指導対応の個室、もしくはコーナーの整備 (余裕教室の利用)	○ 教室近くへ多目的トイレの設置	支援員
	国際理解人権教育	国際理解、人権教育室の整備	翻訳機	通訳ソフト	支援員		
NO.1	小中一貫教育	共用しやすい特別教室の整備	ランチルーム、多目的ホール等の交流空間整備	小中教員の職員室一体化、もしくは情報交換しやすい空間整備	学年割を意識した校舎整備	兼用のプール	特徴を出す
						広い校庭	学力の向上
							上下関係をつくる

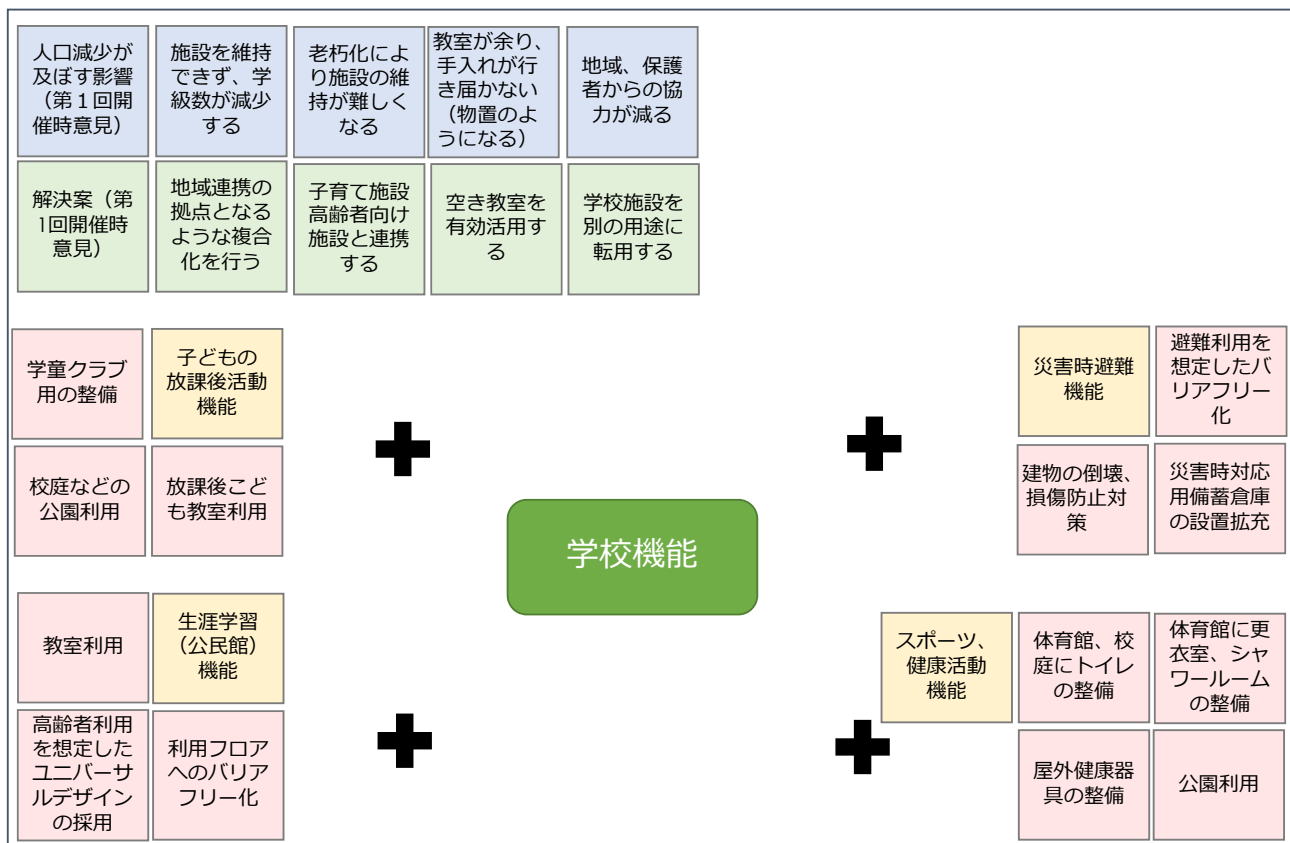
16

①これからの教育に必要と考える学校機能、性能 (2/2) <2班>

特に必要な整備	ソフト	ハード	※赤字：各班で追加した項目		理由
	寒冷及び熱中症対策	高断熱仕様の窓、壁、屋根	空調設備の設置 (特別教室、体育館)		
	利用する教材の変化	教科書サイズの変化に伴う、机サイズの変更	荷物量増加に伴う、ロッカー空間の整備	タブレット	
	インターネット、本などの情報活用	メディアセンター化	ICT機器の利用環境整備 (電源、LAN)		
	プール授業の民間連携による泳力向上	学校プールを廃止し、民間施設利用			

17

②複合化機能の「たたき台モデル」 <グループワーク開始時>



18

② 複合化機能の「たたき台モデル」 (複合化を検討する機能) <グループワーク開始時>

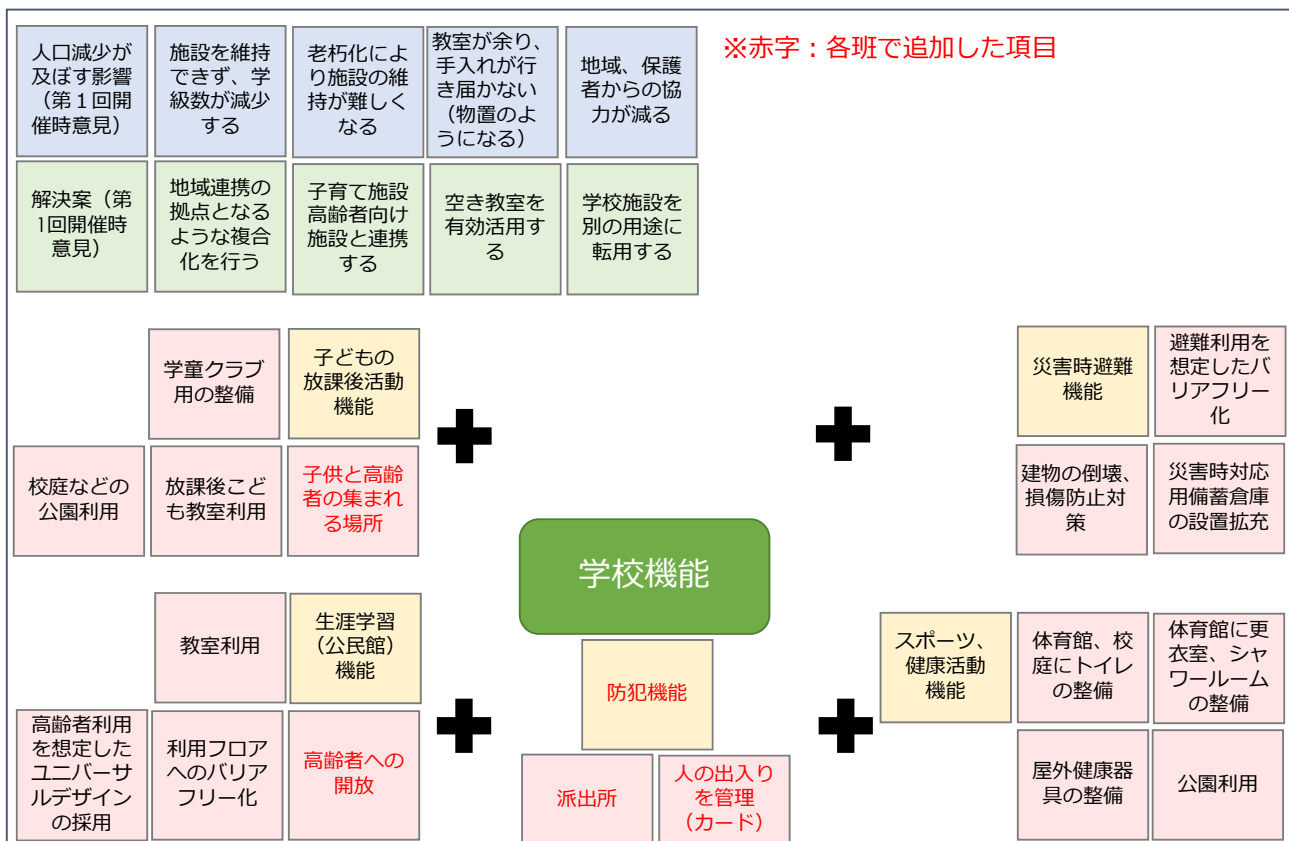
「たたき台モデル」へ複合できそうな機能

保育所	幼稚園	児童館	老人デイサービス	居住型高齢者施設	地域福祉拠点	自治集会所	障がい者作業所	障がい者入所施設
美術館 博物館	文化センター	支所 (行政機関)	図書館	病院 診療所	風俗営業以外の民間施設 (具体名:)			

複合化「たたき台モデル」へ移さなかった機能

たたき台モデルと合わない機能
理由

② 複合化機能の「たたき台モデル」 <1班>



② 複合化機能の「たたき台モデル」 (複合化を検討する機能) <1班>

「たたき台モデル」へ複合できそうな機能 ※赤字：各班で追加した項目

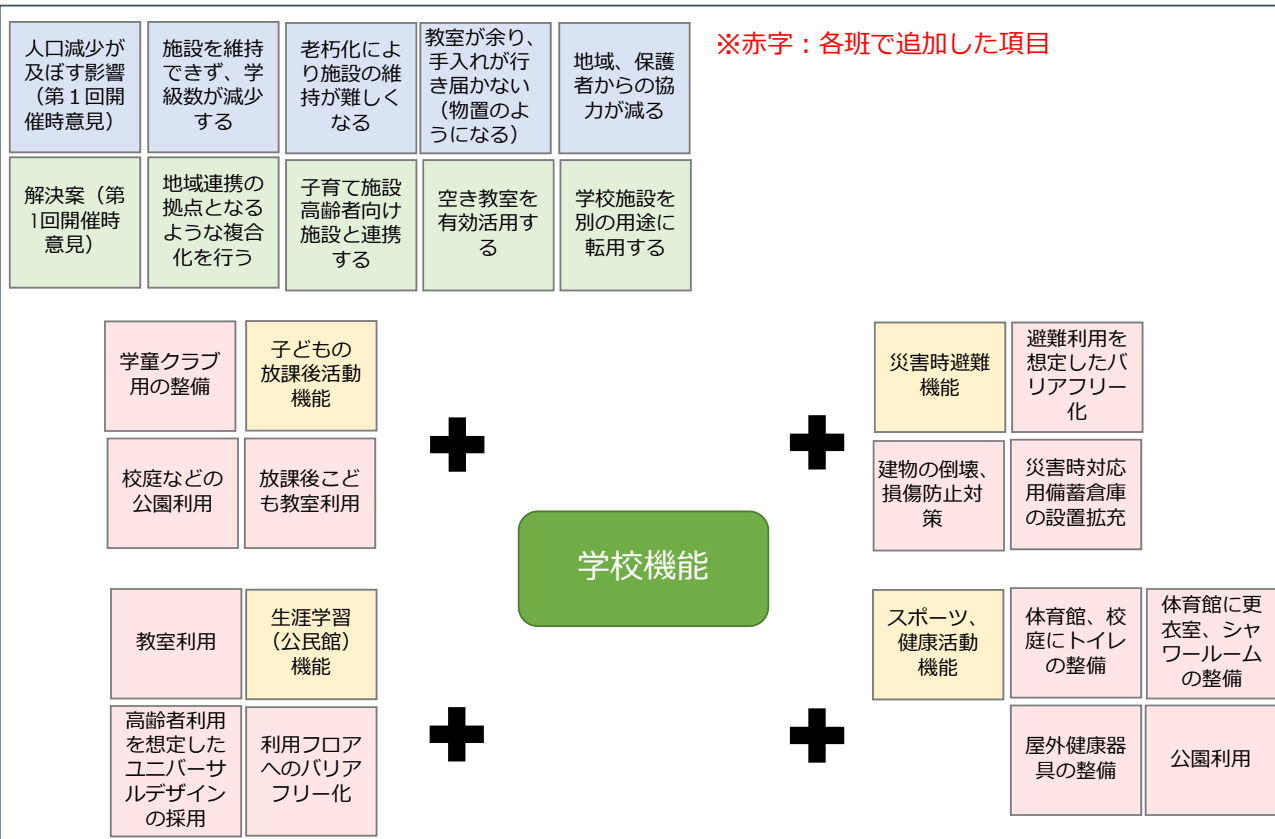
支所 (行政機関)	保育所	老人デイサービス	児童館	図書館	幼稚園	オープンな文化財資料館	障がい者作業所	風俗営業以外の民間施設 (具体名：スーパー)
施設利用状況案内板 (システム)								

複合化「たたき台モデル」へ移さなかった機能

たたき台モデルと合わない機能	病院診療所	居住型高齢者施設	障がい者入所施設	美術館博物館	文化センター	地方福祉拠点	自治会集会所
理由	感染の恐れ	市内にすでに多くある	入所施設までは難しい	維持するには費用が大きすぎる規模が大きい		複合化には向かない	自治会単位であるべきだ

② 複合化機能の「たたき台モデル」 <2班>

※赤字：各班で追加した項目



② 複合化機能の「たたき台モデル」（複合化を検討する機能） <2班>

「たたき台モデル」へ複合できそうな機能 ※赤字：各班で追加した項目

地域福祉拠点	幼稚園	老人デイサービス	図書館	支所 (行政機関)	自治会集会所	文化センター	保育所	児童館
--------	-----	----------	-----	--------------	--------	--------	-----	-----

複合化「たたき台モデル」へ移さなかった機能

たたき台モデルと合わない機能	風俗営業以外の民間施設	居住型高齢者施設	障がい者作業所	障がい者入所施設	美術館博物館	病院診療所
理由		セキュリティに問題	非効率	親和性が薄い	教育との相乗効果	

上尾市学校施設更新計画策定に伴う

学校施設ミーティング

開催報告書

2019年3月

上尾市教育委員会教育総務部教育総務課

TEL : 048-775-9473 (施設担当)

FAX : 048-776-2250

MAIL : S721000@city.ageo.lg.jp